

かけはし

〒669-2321

兵庫県篠山市黒岡5番地

TEL 079-552-1181 (代表)

FAX 079-552-5343 (代表)

〈理念〉

兵庫医科大学ささやま医療センターは、安全で質の高い医療を通じて、地域社会へ貢献するとともに、よき医療人を育成します。

〈基本方針〉

- 患者の立場に立ったチーム医療の実践
- 人間性豊かで、優れた医療人の育成
- 科学的な根拠に基づく医療の実践
- 健康増進活動による地域の保健・福祉の推進
- 地域の医療機関との円滑な連携

〈患者さんの権利〉

- 良質で安全な医療を平等に受けることができます。
- 病気や治療について、わかりやすく十分な説明を受けることができます。
- 診療内容をご自身で選択することができます。
- 診療内容について、他の医師の意見を聞くことができます。
- ご自身の診療情報を入手することができます。
- いかなる状況においても人間としての尊厳が守られます。
- プライバシーは常に保護・尊重されます。
- 患者さんの権利に関する「リスボン宣言」を尊重し、患者さん本位の医療を実現することができます。

◆地域に貢献し、地域から信頼される病院に向けて◆



明けましておめでとうございます。皆さま方にとって本年も幸多い良い年でありませう、お祈り申し上げます。

私は、昨年11月より兵庫医科大学ささやま医療センター病院長に着任し、前号の「かけはし」にて着任のご挨拶をさせていただきました。平成26年3月までの5年間の兵庫医科大学病院長の経験を活かして、西宮本院との密接な関係をさらに深めることにより、丹波・篠山地域に必要なプライマリ・ケアと高度医療を行い、さらに地域に貢献し、地域の皆さまから信頼される病院になれるよう、努力していきたいと考えております。

また、同じ敷地内にはささやま老人保健施設、ささやま居宅介護支援事業所があり、院内リハビリテーションセンターと共に、急性期を過ぎた患者さまの回復、療養を促進し、ご自宅に帰り、社会復帰していただけるような医療を実現していきたいと考えております。

地域に貢献し、地域に信頼される兵庫医科大学ささやま医療センターを目指し、職員一同なお一層努力いたしますので、地域の皆さま方にはご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

ささやま医療センター病院長 太城 力良

◆栄養管理に注意して、いつまでも健康に◆



新年明けましておめでとうございます。

平成27年(2015年)の年明けは大寒波で篠山も大雪でしたが、いかがお過ごしのことでしょうか。今年は干支では乙未(きのとひつじ)にあたります。「乙」は新芽が出始めている様子を表しています。また、「未」は「木」の上に「一」があり、木に枝葉が茂って行く様子を表しており、繁栄が期待される年ではないかと思えます。生まれてくる枝葉(アイデア)を取り入れ、足元にも陽の光が差し込むように調整する配慮が必要なのでしょう。チーム医療の維持・推進の年であるかも知れません。

羊は群れをなして行動する動物であり、家族安泰・平和をもたらす吉祥動物とされています。祥、翔、義、美、善、養などに羊が入っており、よい意味の漢字に用いられているように思います。

一方、ジャワ語で羊のことはberi(ベリ)といい、ビタミンB1欠乏で脚気になると歩き方が羊のようになるので、脚気のことをberiberi(ベリベリ)といいます。美酒により飽食を続けて栄養のバランスが崩れ続けると、「羊歩き」になりかねません。栄養管理に注意して、「羊歩き」の脚気にならずに「百歳まで健康」を目指したささやま老人保健施設にしていければと思います。本年もよろしく願いいたします。

ささやま老人保健施設長 福田 能啓



◆医療のお話 シリーズ1《お薬の正しい使い方》◆

お薬の入った袋（薬袋）に色々な注意書きがあるのをご存じですか。飲み方、服用後の注意、保管方法など色々記載されています。「なぜ、こんなに注意が?」と思われるかもしれませんが、お薬を正しく使うためのものです。主な注意についてふれてみます。

1. どうしてお薬はお水で飲まないといけないの?

お水以外の飲み物で飲むと、お薬の効果が強くなったり、弱くなったりすることがあります。お薬はコップ1杯程度の水又はぬるま湯で飲むと、お薬の効きに影響なく飲めます。また、お薬を食道に留めることなく胃に確実に送ることができます。

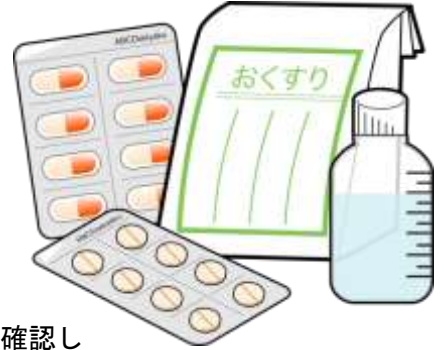
2. お薬の使い方には決まりがあるのですか?

お薬の使い方には用法（飲み方、飲む回数、飲む時間）・用量（飲む量や数）が決まられており、薬に対する食事の影響を考え、食前、食後等最も効き目のよいタイミングで指示されています。

これはお薬を効果的にかつ安全に飲むための決まりです。

3. お薬の正しい保管方法は?

- ・お薬は子どもの手の届かないところに保管しましょう。
- ・お薬は湿気、日光、高温を避けて保管しましょう。
- ・古いお薬は廃棄しましょう。
- ・お薬を他の容器に入れ替えて保管せず、薬袋に記載している飲み方を確認して飲みましょう。



4. すべてのお薬には「主作用」と「副作用」があります。

主作用：病気を治したり、軽くしたりする働きのことです。例えば、アレルギーのお薬を飲んでかゆみをとれたり、発熱時に解熱剤を飲んだら熱が下がったこと等を指します。

副作用：本来の目的以外の好ましくない働きのことです。例えば、アレルギーのお薬を飲んだら眠い、解熱剤を飲んだら胃が痛い等を指します。

お薬を飲んで、何かおかしいと感じることがありましたら、遠慮なく医師又は薬剤師にご相談ください。

◆クリスマスコンサート◆

平成26年12月25日ささやま医療センター正面玄関スペースにおいて、クリスマスコンサートを開催しました。午後3時から午後4時という短い時間でしたが、歌やピアノ、フルート演奏、民謡と踊り等、バラエティに富んだプログラムでした。会場には、入院患者さんや入所者さんも多数鑑賞に来ていただくことができ、歌や演奏、踊りに合わせて、口ずさんだり、手拍子もあつたりと、アットホームで温かい雰囲気の中、コンサートが行われました。

プログラムの最後は会場全員で「サンタが町にやってくる」を合唱すると、サンタさんも登場して来場者へのクリスマスプレゼントもあり、皆さんが楽しまれていました。



◆インフルエンザ等感染防止について◆

感染管理認定看護師は、全国で2,053人、兵庫県で77人います（平成27年現在）。この認定看護師は、一定の研修を受けた後に看護協会認定審査に合格し、特定の分野において個人、家族及び集団に対して水準の高い看護の実践・看護者への指導・看護者に対する相談の3つの役割を担っております。（公益社団法人日本看護協会ホームページより引用）

当院にはまだ認定看護師はいませんので、平成25年度より兵庫医科大学病院から感染管理認定看護師を派遣してもらい、インフルエンザを始めとした感染の防止対策等で相談し、対応が適正であるかの助言を受けながら、随時的確な指導で院内感染拡大の防止を図っています。また、兵庫医科大学病院、西宮市内の2病院と当院の計4病院で3カ月に1回の共同カンファレンスを実施しております。さらに、平成24年からは、年1回の私立医科大学病院の1病院と相互ラウンドを行い、感染防止に関する質の向上をはかっています。

兵庫県看護協会阪神北支部においては、毎年、認定看護師による感染管理出前研修を実施していますので、ご希望がありましたらお問い合わせください。

